3日目42人 雨にもマケズ、風にも負けず「派遣村」

カンパも30万円突破

「ワンストップの会」の相談会場で、受付に並ぶ人たち＝３０日、東京新宿

テント倒壊

１２月３０日は、午後からあいにくの雨。夕方からは本降りでテントにも雨水がたまってギシギシと音がなりはじめました。このままでは、雨水に押しつぶされる危険性も。幸い、雨はさほど本降りにはなりませんでした。

しかし、１２月３１日の早朝５時に、夜警をお願いしているボランティアから風でテントの一つが倒壊したとの知らせが入りました。副村長の村上さんなどが駆けつけ、２時間かかって何とか張りなおしましたが、朝方から午前中は、なお風が強く、宣伝カーにテントをくくりつけるなど補修と補強に追いまくられました。（鉄の「杭」を準備しておくべきだった！）

３日目も無事「開村」

おかやま「派遣村」の３日目は、こうした波乱がありつつも無事、時間通りに「開村」することができました。寒風が吹きすさぶ中、村に集まってくる人たちの出足は若干遅れましたが、続々と昼前には前日を上回る３９人の入村者がありました。

朝早くには、ニュースを見て、ジャンパーをカンパするため倉敷からわざわざ訪ねてくれた方もいました。さらに事務局の電話がいつも話中にもかかわらず、粘り強く電話をかけてくださり、「年内に少しでも役立ちたい」とカンパを寄せてくださった老夫婦もいました。

ボランティアも次々に集まり、３日目は５５人でした。

相談７件、シェルター利用２人

本日の相談は、全部で６件。東京の派遣会社で働く青年が帰省で実家に帰り、おかやま派遣村を知り、相談にこられました。友人宅に身を寄せている若者も来月下旬には仕事が決まりそうだが、年末年始は友人宅出なくてはならず、シェルター利用を希望され、入ることとなりました。他にも多重債務の相談やメンタル面での相談などがあり、終日、相談員は奮闘しました。

１月３日の午後のボランティア大募集

おかやま「派遣村」が終わる１月３日の午後は、大量のボランティアが必要です。昼の炊き出し以降で、相談窓口は確保しながら、夕方までにテントをたたんで支援物資やゴミの移動をしなくてはならず、人手が必要です。翌日から新年の仕事が始まるという忙しい中ですが、ぜひともボランティアにご協力ください。

１月３日の緊急ボランティアにご協力を

カンパ（現金分）到達点３０８，６３９円（12月31日現在）

派遣・労働者支援センター
派遣村ニュース

第３号　2009年12月31日
発行：派遣・労働者支援センター
岡山市北区春日町5-6　県労おかやま内
TEL. 086-234-2041　fax. 086-221-3595